

いい声 いい顔 いい心

主幹だより No.27

文責：城



いよいよ佳境へ…ふんばりどころです

運動会練習が佳境をむかえましたね。子供たちも先生方も疲労が蓄積されていることでしょう。ここがふんばりどころです。「ここを乗り越れば、自身の、学級の、学年の、学校の成長につながることを」子供たちにていねいに話していただき、奮起するようお願いします。スローガン達成の充実感・満足感を味わわせましょう。



全体練習初日。きれいに整列するだけでとてもかっこよく見えます。

学力強化月間

前回は、国語の聞き取り問題を例に県学力調査に向けた対策を掲載しました。今回は「隙間時間」の活用についてです。自分の担任時代は、帰りの会を早めに終わってB5用紙1枚または1問だけ解かせてから下校させていた時がありました。合格したら下校です。最初は丸付けに追われますが、残っている人数が少なくなってきたところで、定着が十分でない児童に個別指導をします。自力で解けなかった児童は、教師主導で解いた後に、類似問題（数値がちがうだけで、さらに計算しやすい数値にしてある）を解かせます。早い児童は2、3分で下校しますし、時間がかかる児童も15分（できれば10分）で帰ります。NRT前などは3学期早々、月曜：国語、火曜：理科、木曜：算数、金曜：社会と決めてやっていました。山小では、朝の時間を強化に活用することができます。「塵も積もれば…」です。「絶対上げる」という教師のハマりが肝心です。

～ティータイム～

「友情」

運動会に全力を注ぐ時期になった。そんな中でも特に応援団は過酷な毎日といっていだらう。自分にとって忘れられないシーンがある。



6年担任をしていた時のこと。白団団長の声はガラガラで全然声量がない。本番が2日後に迫っていた。そんな時「お前（団長）は、今日と明日、声出すな!!応援合戦の声出しは俺がするけん。お前は本番まで喉ば休めろ!!」副団長の言葉だった。この事実を受けた白団の発奮と、団長と副団長の友情に胸を打たれた。副団長の思いを受けた白団長の本番での気合はすさまじかった。赤団もそれに負けじと燃え上がる。これこそ子供たちが創り上げる運動会だと思った。

今年度の山小の運動会も感動的なドラマが繰り広げられることだろう。期待大である。

